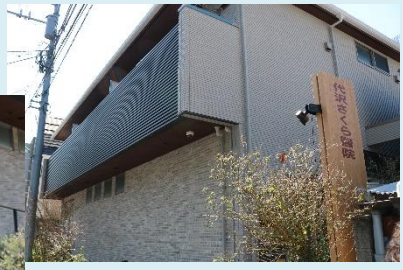
Voice of Customer

Vol.1 代沢さくら醫院 様

Ryan Scope・Julie Eye





〒155-0032 東京都世田谷区代沢4−45−19 ザシーズン代沢1F



お話を伺った　院長 小林健一 先生(左) と　副院長　小林千紗 先生(右)

コンパクトサイズの眼底カメラを日常検査で使用

糖尿病患者様の眼底検査と特定健診で活用

ご施設紹介

東京都世田谷区の閑静な住宅街に佇む“代沢さくら醫院”は、内科、糖尿病内科、腎臓内科、消化器科等、幅広い診療に対応する地域密着型の医療機関です。誰にもやさしいバリアフリー設計の施設に、エコー、レントゲン、胃カメラ、眼底カメラ等、充実した機能を備え、院長 小林健一 先生と副院長　小林千紗 先生のお二人で、小さなお子様からご高齢の方まで、どなたでも気軽に通院できる地域のかかりつけ医院として、長きにわたって地域医療を支えています。(クレアボ)

眼底カメラの導入背景についてお聞かせください

世田谷区の特定健診項目に眼底検査が設けられたことをきっかけに、患者様の受診負担などを考慮し、内科で眼底検査を行う体制を整えるために、眼底カメラを導入しました。

初めて導入した機器の老朽化が進んでいたため、切り替えを検討していたところ、クレアボ社の眼底カメラであるRyan Scope/Julie Eye を紹介され、検討する機会がありました。実機を確認したところ、コンパクトなサイズであり、当院の検査環境でも運用可能と判断しました。またAI による解析支援も利用でき、当院の検査・説明のフローに適合すると判断し、導入しました。

活用シーンを教えてください

主に特定健診と、糖尿病患者様の外来に使用しています。当院を受診する約7割が高齢の方ですが、その多くは高血圧、高脂血症、糖尿病等の生活習慣病にかかっています。糖尿病の方は高齢者の約3割いらっしゃるので、年間の診療計画に基づき、患者様の状態に合わせて、1～2回/年の眼底検査を行っています。また、特定健診には、血液検査をはじめ、胸部X線、眼底検査等が指定されますので、当院では、特定健診で求められている検査の多くを院内で実施できる体制としています。実際に当院にかかりつけの患者様の多くが受診されています。

※本資料は医療従事者向けの情報提供を目的として作成されています。



ハンディ眼底カメラの運用方法を教えてください

当院では看護師に撮影をお願いしています。正直、ハンディタイプ*の眼底カメラの取り扱いは全員初めてだったので、最初は練習が必要でした。スタッフ同士で練習を繰り返し、また、撮影する部屋の明るさの調整や、製品のできること、できないことをしっかりと理解して使用することにより、現在はスムーズに運用できています。どの医院でも同じかと思いますが、施設スペースには限りがあるので、コンパクトである事の利点も大きいです。

＊代沢さくら醫院様は、あご載せ台を使用して撮影されています。

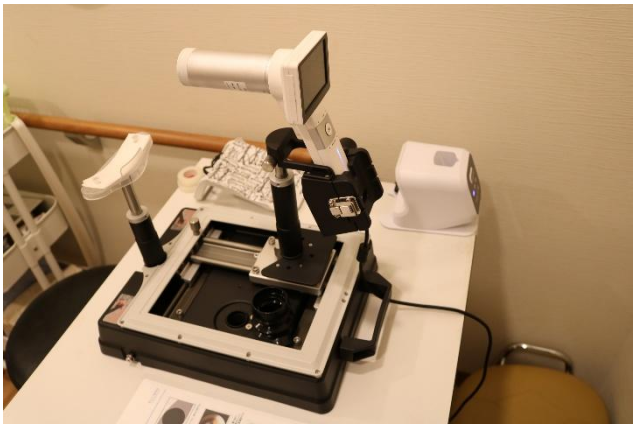
導入効果を教えてください

従来は、患者様に対し、眼底写真を用いた説明のみでしたが、Julie EyeではAIによる解析結果を参照できるため、診療時の情報として使用するとともに、患者様への説明の際にも活用しています。当院で定期的な眼底検査を実施することにより、糖尿病患者様の合併症に対する認識を促す機会となっています。AI が提示した解析結果を参考情報とし、眼科受診を提案した事例もあります。長年にわたって眼底検査を実施していることもあって、近隣の眼科先生方との地域連携が円滑に行えています。

今後の活用展望

Julie Eyeは、Ryan Scopeで撮影された眼底画像から、短時間で眼底画像を解析し、診断に役立つ情報を提示してくれます。現在の機能により、診療時の参考となる情報が得られており、今後もAI技術を活用した医療の発展に期待しています。クレアボ社は先進的な医療機器・プログラム医療機器を紹介してくれるので、今後も医療従事者の診療をサポートする技術の発展に期待しています。

当院のような地域のかかりつけ医療機関では、様々な患者様が来院されるため、AI などの技術を活用して診療内容を補完することが重要だと考えています。今後も様々な領域で、医療現場の診療を支援し得る技術の提供を継続していただければと考えています。（インタビュー：2025年3月）



販売名:　眼底撮影装置　Ryan　Scope／ライアンスコープ
一般的名称:　眼底カメラ
認証番号:　304ADBZX00087000
特定保守管理医療機器

販売名:　画像解析ソフトウエア　Julie　Eye／ジュリーアイ
一般的名称:　眼底カメラ用プログラム(眼撮影装置用プログラム)
認証番号:　304ADBZX00119000
*[1]本品は医師による診療を補助するプログラムであり、検出した症状より自動的に眼疾患の診断を行うものではない。したがって、専門医は自身の責任において、眼の精密検査や他の検査の結果から 最終的な診断を行うこと。
*[2]詳細は製品の添付文書を参照ください。

本資料に記載の内容は、取材時点における各医療機関での使用経験および個人の見解に基づくものであり、すべての医療機関で同様の結果を保証したり、特定の機器の使用を推奨するものではありません。

CLAIRVO TECHNOLOGIES

発行元：クレアボ・テクノロジーズ株式会社
〒103-0016 東京都中央区日本橋小網町 11-4
www.clairvotech.com

Medimaging Integrated Solution Inc.

製造業者：Medimaging Integrated Solution Inc.
3F. No. 24-2, Industry E. Rd. IV. Hsinchu Science Park, Hsinchu, Taiwan 30077.

2026/08改訂版